

早出し 大分から中学生、一緒に石段上る 山寺中生が俳句で交流、面白さ再認識

>>山形新聞トップ >>県内ニュース >> 地域

2025/08/01 14:23



立石寺の石段を上り、歴史に触れて俳句の世界を広げた生徒ら＝山形市山寺

それぞれが詠む俳句の世界を広げようと、山形市の山寺中（武田裕子校長）と百人一首が縁で交流する大分県佐伯市の本匠中（高野徹校長）の2、3年生3人が7月30日、山寺地区を訪れ一緒に作句に取り組んだ。

3人は佐伯市本匠地域の魅力発信と、同地域で以前盛んだった俳句文化による地域活性化を目指し、同市の郷土本匠広報大使として来県した。山寺中からは1～3年生有志10人が参加。山寺中生がガイド役を務め歴史や史跡などを説明しながら、俳聖松尾芭蕉が歩いたという立石寺の石段を一緒に上った。

山寺芭蕉記念館では、俳人武田菜美さん（山形市）に俳句の成り立ちや季語の役割などを学び、両校生徒はこの日感じたことを踏まえ作句した。本匠中2年藤原琉丞（りゅうすけ）さん（13）が詠んだのは「門くぐり永遠の涼しさ杉木立」との句。「山寺の人たちに温かく迎えてもらいうれしかった」と話し、「俳句を詠むことでこの日の思い出がよみがえる。その魅力をあらためて感じる事ができた」と笑顔を見せた。藤原さんら3人は今後、俳句の面白さを地元を広めるという。